多摩ニュータウン研究の原稿の様式2022年度版

The format of the manuscripts for Research on Tama New Town for FY 2022

見出しは左寄せにすることに注意して

Focusing on the rule that the title should be on the left

永山　一子・多摩　次郎・堀之内　三郎

Nagayama kazuko, Tama Jiro, Horinouti Saburo

*キーワード：マイクロソフトワード，B4版，大見出し，中見出し，引用文献*

*Keywords: Microsoft Word, B4 format, Chapter title, Section title, References*

１　適用範囲

　この原稿の様式は，すべての原稿に適用する。

２　ページ設定

　多摩ニュータウン研究は，A4版，２段組，１段当たり全角24文字，45行とする。なお，印刷時の字間調整により，一行文字数は１文字程度変化することがある。

３　余白設定

　余白は上26mm，下24mm，両側11mm，中央11mmとし，さらに７mmの綴じ代を奇数頁では左，偶数頁では右にとる。

４　フォント設定

　大見出し，中見出しはMSゴシック，小見出し，本文はMS明朝を用いる。表題部以外の文字の大きさは10.5ptとする。

５　表題部

　原稿には，本原稿に例示するように，和文と英文で，題名，投稿者の氏名，キーワード(３から５語)を記した表題部をつける。英文題名は，先頭の単語の先頭文字のみ大文字にする。ただし，固有名詞は，その書式に従う。なお，投稿者の氏名以外のプロフィールは，原稿末尾に一括して掲載する。

６　本文

6.1　本文の見出し

　見出しは下記のように記載する。

１）大見出し　１　２　…　前１行あけ。

２）中見出し　1.1　1.2　…　改行。

３）小見出し　1)　2) 　…　１字あけ本文。

6.2　本文の章立て

　本文は原則として，その内容に応じて，緒言，目的，方法，結果，考察，結論，引用文献などの章立てを設ける。ただし，短い原稿や随想などで，これによるのが適切でない場合には章立てを設けないこともできる。

6.3　漢字，仮名遣い，数詞，送り仮名

　原稿は原則として，常用漢字，現代仮名づかいを用いる。数詞(数字)はアラビア数字を用いる。

　ひとつ・ふたつ等は，一つ・二つのように漢数字を用いるか，ひらがなで表記する。また，次の言葉の送り仮名は，下記のように表記する。

　おこなう→行なう　あらわす→表わす，表す

6.4　句読点と括弧

　和文は，全角の句点(。)と全角のコンマ(，)で区切る。欧文は，半角のピリオド，コンマを用い，それらの後に半角空白をひとつ入れる。

　括弧は，「鉤括弧」や『二重鉤括弧』などは全角とするが，(丸括弧)は半角とする。

6.5　算用数字・欧文文字

　１字の場合は全角，２字以上は半角とする。括弧も文字数に加算する。例は次の通り。

　１文字の場合はこうなり， 20文字の場合はこうなり，括弧付きの場合は1)のようになる。

6.6　年の表記

　年は西暦で表わし，必要な場合は，1990(平成２)年のように元号を併記する。

6.7　図(写真含む)と表

1) 図表のファイル

　図(写真含む)と表は本文中にファイルとして貼込んで位置を示す。別途に独立したファイルとしても添付する。

2) キャプション

　図(写真含む)はその下に，表はその上に，中央揃えでキャプションを付ける。キャプションには，図１，表１などの番号を冒頭に付ける。図表と本文の間，キャプションと本文の間、図表と図表の間はそれぞれ1行あける。下記例を参照。

表１　ニュータウン関係自治体

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自治体名 | 人口(人) | 面積(km2) |
| 新多摩市 | 67,221 | 15.5 |
| 南多摩町 | 12,356 | 32.0 |
| 多摩ヶ丘村 | 2,502 | 30.3 |



図10　東京都庁

6.8　引用文献の本文中での表記

文献を引用する場合は以下の例のように，本文中の該当個所に(著者名，西暦発行年)，ページを示す必要がある場合には(著者名，西暦発行年，p.○あるいはpp.○-○)，または本文中に著者名があるときは，著者名(西暦発行年)，または本文中に著者名があるときは，著者名(西暦発行年，p.○あるいはpp.○-○)と記し，論文末尾に引用文献の欄を設けて一括掲載する。著者名は姓のみで２人までとし，それ以上は「ほか」と記す。引用頁は省略することができる。

1) 著者が一人の場合　矢沢(1990)は…，…である(矢沢，1990)。Smith(1985)は…，…である(Smith, 1985)。

2) 著者が二人の場合　矢沢・村田(1987)は…，…である(矢沢・村田，1987)。Smith and Black(1962)は…，…である(Smith and Black, 1962)。

3) 著者が三人以上の場合　矢沢ほか(1986)は…，…である(矢沢ほか，1986)。Smith et al.(1997)は…，…である(Smith et al.，1997)。

4) 頁数を示すとき　次のように記す。矢沢・村田(1987，p.15)は…，　…である(矢沢・村田，1987，pp.20-25)。

5) その他　複数の引用文献がある場合などは次のように記す。これらの研究(矢沢，1987，1988a，1990a・b；三上，1992；岡，1983)は…，…である(Smith and Black，1962，p.204；内山，1970)。

７　謝辞等

必要な場合は本文の次に１行あけて「謝辞等」(カギ括弧は不要)と記し，次の行から記す。末尾の例を参照。

８　注

　注はできるだけ設けないのが望ましいが，注がある場合は，本文中の当該個所の右肩に，右肩括弧付きで通し番号を付し注1)，本文(ないしは謝辞等)の後に１行あけて「注」(カギ括弧は不要)と記し，次の行から番号を付して記す。末尾の例を参照。

９　引用文献一覧

　引用文献の一覧は，本文(謝辞等・注も含む)の後に１行あけて，MSゴシックで「引用文献」(カギ括弧は不要)と記し，次の行から一覧を書く。

9.1　引用文献の順序

　日本語文献(著者名の五十音順)，欧文文献(著者名(姓が先)のアルファベット順)の順に並べる。

　同じ著者の文献は，発表年の昇順に並べる。同じ発表年のものが複数ある場合には，本文中での引用順にa，b，c…をそれぞれ付し(1960a，1960b，…)，文献一覧には，そのアルファベット順に記載する。連名著者で，筆頭著者が同じ場合は，著者数の少ない順に並べる。

9.2　引用文献の一覧の書式

　書式は，原則としてAPAスタイルによる。

和文では，全角のピリオド(．)と全角のコンマ(，)で区切る。英文では，半角のピリオド，コンマを用い，それらの後に半角空白をひとつ入れる。

出版年，更新年が不明な場合には，出版年，更新年の代わりに(n.d.)と記載する。

著者が記載されていない場合には，新聞・雑誌記事や団体の出版物あるいは公式ウェブサイトなど内容に責任を持つ主体が特定できる場合にはその名前を記載する。例えば新聞・雑誌記事であればその新聞・雑誌名を著者名とし，団体あるいはその部門が発行する出版物や運営するウェブサイト記事であればその団体・部門名を著者名とする。著者あるいは内容に責任を持つ主体が特定できない場合には，著者不明と記載する。

ウェブサイトで閲覧できる文献は，以下の形式で記載する。ウェブサイトのみで提供されている文献（新聞記事でオンライン版から引用する場合もこれに準じる）は，urlを掲載する。紙面でも発行されている場合や，ウェブサイトのみで提供されていても図書・報告書・雑誌・文書など出版物の形態である場合には，urlは省略可能とする。ただし，DOIが付与されている場合には記載を推奨する。ウェブサイトで提供されているファイルの形式（HTML，PDFなど）は記載する必要はない。DOI 以外のurlを掲載する場合には，閲覧日を付記する．

1) DOIが付与されていない和文論文の場合

著者名 (出版年)．「論文名」．『雑誌名』，巻数(号数)，pp.はじめのページ-終わりのページ．

2) DOIが付与されている和文論文の場合

著者名 (出版年)．「論文名」．『雑誌名』，巻数(号数)，pp.はじめのページ-終わりのページ，DOI．

3) 和文図書の場合

著者名 (出版年)．『書名』．出版者．

4) 和文図書に収録された論文の場合

著者名 (出版年)．「論文名」．編者名(編)．『書名』．出版者，pp.はじめのページ-終わりのページ．

5) 団体（政府，地方自治体を含む）による報告書あるいは文書の場合

団体あるいはその部門 (出版年)．『報告書あるいは文書の題名』．

6) 紙面の新聞記事の場合

署名記事の場合には著者名でそれ以外は新聞名 (出版年)．「記事名」．『新聞名（必要な場合には本支社名，地域版名等）』，掲載年月日，（もしあれば朝夕刊の別，版数，）頁．

6) オンラインの新聞記事の場合

署名記事の場合には著者名でそれ以外は新聞名 (出版年)．「記事名」．『新聞名（必要な場合には発行本支社名，地域名等）』，掲載年月日，url，閲覧日．

7) ウェブサイトのみに掲載された文献の場合（wikipedia，youtube，facebook，twitter，そのほか動画，ブログなどを含む）

著者名 (更新年)．（「もしあれば題名」）．（『もしあればウェブサイトの名称』，）url，閲覧日．

8) 英文の文献の場合

　和文の文献に準じる。例は次の通り。

Authors (year). Title. *Journal name*, Volume(Number), pp.はじめのページ-終わりのページ, DOI.

9.3　引用文献を記載する際の留意点

　留意点は次のとおり。

1) 範囲　本文で引用したもののみをあげる。

2) 著者名 複数であっても，原則として全員を記す。

3) 巻号　巻号のある雑誌では，巻ごとに通し頁がある場合には号数を省略し，号ごとに頁が改まる場合には号数を落とさない(例えば第３巻第４号は3(4)のように書く)。巻表記がなく，号数のみの場合には，号を巻に準じて記す。

4) 書名と誌名　欧文単行本名と欧文雑誌名は，イタリックで表記する。和文単行本名と和文雑誌名は，『』で括る。

5) 欧文の大文字　論文表題は，先頭の単語の先頭文字のみ大文字にする。単行本名は，冠詞，前置詞，接続詞を除いた単語の先頭文字を大文字にする。ただし，固有名詞や，その言語固有の書式がある場合には，その書式に従う。

10　その他

　原稿の性質から本様式に寄りがたい場合には，あらかじめ申し出ることにより，様式を変更することがある。

謝辞等

　謝辞等の例は次のとおりである。本研究は多摩ニュータウン記念財団の支援を受けた。深甚なる謝意を表する。

注

1) この例のように注を記載する。

引用文献

（和文図書の場合）

海野　弘 (1988)．『モダン都市東京』．中央公論社．

（翻訳図書の場合）

トゥアン, Ｙ. Ｆ. 著，山本　浩訳(1988) ．『空間の経験－身体から都市へ－』．筑摩書房．

（論文で巻号表記の場合）

伊藤　等，森　茂 (1975)．「多摩川決壊リポート」，『地理』，20(6)，pp.10-15．

（DOIが付与された論文で，巻数がなく号数だけの場合）

西村　光平，大西　隆，栗田　治，吉田　朗 (1991)．「東京圏におけるオフィスの集積状況と分散政策に関する研究」．『都市計画学会論文集』，26，pp.127-132，https://doi.org/10.11361/journalcpij.26.127．

（図書に収録された論文の場合）

吉原　直樹 (1983b)．「権力と参加」．高橋　勇悦，菊地　美代志(編)．『今日の都市社会学』．学文社，pp.57-85．

（同一著者，同一年に２点以上の文献がある場合）

吉原　直樹 (1983a)，『都市社会学の基本問題』，青木書店．

（ウェブサイトのみに掲載された文献の場合）
篠原　啓一 (2021)．「タウンウオッチング「『続・多摩よこやまの道』を歩こう～ニュータウン稲城地区の展望を楽しむ」のご案内」．『多摩ニュータウン学会』，https://www.facebook.com/tama.nt.org/posts/6371568639581540，2021年12月17日閲覧．

ウィキペディア (n.d.)．「たまらん坂」．『ウィキペディア　フリー百科事典（日本語版）』，https://ja.wikipedia.org/wiki/たまらん坂，2021年12月17日閲覧．

吉川徹 (2019)．「2019年度オープンキャンパス模擬授業　建築で都市をつくる」．『東京都立大学オープンコースウェア』，https://ocw.tmu.ac.jp/courses/35/122，2021年12月17日閲覧．

（紙面の新聞記事で署名がない場合）

朝日新聞 (2021) ．「「一日署長」は金メダリスト　フェンシング見延選手」．『朝日新聞（東京本社，多摩版）』，2021年12月17日，朝刊，13版，p.23．

（オンラインの新聞記事の場合）

Sarkar, A. R. (2021). New Zealand to ban cigarettes for future generations and go ‘smoke-free’ by 2025, *Independent*, Dec 9, 2021, https://www.independent.co.uk/news/world/australasia/new-zealand-ban-smoking-tobacco-b1972663.html, retrieved Dec 17, 2021.

（英語論文で，巻数がなく号数だけの場合）

Applebaum, R. A. (1983). The poverty of structural analysis, *Comparative Urban Research,* 9, pp.221-230.

（DOIが付与された英語論文で，巻数（号数）を記載する場合）

Duncan, S. S. and Savage, M. (1989). Space, scale and locality, *Antipode*, 21(3), pp.7-16, https://doi.org/10.1111/j.1467-8330.1989.tb00188.x.

（英語図書の場合）

Bowles, S., Gordon, D. M. and Weisskopf, T. E. (1990). *After the Waste Land*, Univ. of Chicago Press.

（英語の図書に収録された論文の場合）

Pred, A. (1985). The social becomes the spatial, the spatial becomes the social: enclosures and social change, Gregory, D. and Urry, J. (eds.). *Social Relations and Spatial Structures*. Macmillan, pp.45-70.

著者プロフィール

永山　一子：新多摩市役所(New Tama City Office）。東京都国立市に生まれ，小学校3年生から多摩ニュータウン住民。

多摩　次郎：多摩ニュータウン住民(Resident of Tama New Town)。2018年より多摩ニュータウン学会員。

堀之内　三郎：ニュータウン大学地域学部准教授(Associate Professor, Faculty of Regional Science, New Town University)。2001年ニュータウン大学大学院地域学研究科博士課程修了。博士（地域学）。多摩ニュータウンにおける市民活動による居場所の形成に関する研究を続けている。